

臼後歯の1症例

青山貴廣, 岩崎友見, 薄井陽平, 内山真紀子,
宇和山 猛, 久野知子, 小林淳次, 佐久間 玄, 山下秀一郎

松本歯科大学病院 総合診療科

内田啓一

松本歯科大学 歯科放射線学講座

A Case of Distomolar

TAKAHIRO AOYAMA, YUMI IWASAKI, YOUHEI USUI, MAKIKO UCHIYAMA,
TAKESHI UWAYAMA, TOMOKO KUNO, JUNJI KOBAYASHI,
TAKASHI SAKUMA and SHUICHIRO YAMASHITA

Interdisciplinary Dentistry, Matsumoto Dental University Dental Hospital

KEIICHI UCHIDA

Department of Oral and Maxillofacial Radiology, Matsumoto Dental University School of Dentistry

過剰歯は永久歯列に多く認められ, 発現頻度としては上顎前歯部に最も多く, 次いで上顎大臼歯部に多いとされており, 下顎大臼歯部に認められる過剰歯はまれである。

今回, 我々は右側下顎第三大臼歯部の遠心側に認められた過剰歯いわゆる臼後歯の1例を経験したので, その写真を供覧する。

患者: 31歳, 女性。

初診日: 2001年4月12日。

主訴: 右側下顎大臼歯部の自発痛。

既往歴および家族歴: 15歳時から貧血のため某病院にて治療を受けるも, 現在経過は良好である。

また, 2000年10月マイコプラズマ肺炎のため某病院に入院し, 現在は完治している。

現病歴: 2001年4月頃から, 右側下顎大臼歯部の自発痛を認めたため, 某歯科医院を受診した。その際に右側下顎第三大臼歯の抜歯を勧められ, 本学を紹介され同年4月12日精査目的のため受診し

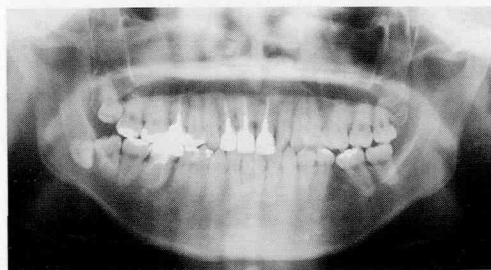


写真1: 初診時のパノラマX線写真。右側下顎第三大臼歯部遠心側に過剰歯を認め, 歯冠周囲には比較的境界明瞭な透過像を認める。

た。

現症:

口腔外所見: 右側顎下リンパ節の腫脹と熱感を認めた。

口腔内所見: 右側下顎第三大臼歯の頬側遠心歯肉部に発赤と腫脹を認めた。

画像所見：同年同月、同部の精査のため断層方式パノラマX線検査を行った（写真：1）。右側下顎第三大白歯遠心側に過剰歯と思われる埋伏歯が認められた。その歯冠周囲においては、大白歯様の幼若な歯冠形態を示しており、歯根部においては未完成な状態を呈していた。また、下顎第三大白歯は過剰歯の発育に伴って遠心傾斜したと思われる、それに伴い過剰歯が前下方への移動を示し、一部においては下顎管を圧迫している所見を認めた。

画像所見より、下顎第三大白歯の遠心側に認められた白後歯と診断した。

下顎大白歯遠心側にみられる白後歯の発現頻度は、Stafne¹⁾によると500例中10例（2.0%）、栃原²⁾は520例中1例（0.19%）、吉原³⁾らはパノラ

マX線写真上で検索した結果、下顎での発現頻度は0.04%であると報告しており、まれであることがわかった。

過剰歯は矮小歯のことが多いが、稀に近似した形態をした歯が隣在していて、どちらが過剰歯なのか判断に苦しむことがあるので、口腔内診査やX線検査により、歯数の確認を行うことが大切であると思われた。

参 考 文 献

- 1) Stafne EC (1932) Supernumerary teeth. *Dent Cosmos* **74**: 653-9.
- 2) 栃原義人 (1935) 白歯列過剰歯に関する研究. *歯科学報* **40**: 24-37.
- 3) 吉原史郎, 中津継夫, 和田和俊 (1992) 第4大白歯のX線学的検討. *日口診誌* **5**: 333-6.